

第4回 富山県防災会議における委員の意見概要と対応

《平成25年2月27日開催》

No.	委員	意見の概要	意見に対する対応
1	奥寺専門委員	① 石川県と連携した医療関係者の研修が必要。富山県と石川県の医療関係者が連携して、しっかりした医療活動を実施できる体制づくりが大切。	① 両県の医療機関合同による研修の実施を記述 (p45, 4行目)
2	野村専門委員	① 防災人材の養成には、研修や訓練が重要である。石川県と顔が見える関係を築くためには、共同での研修や訓練の実施が必要。 モニタリングポストやホールボディカウンタ等の運用や維持管理の人員を養成し、いざという時に機能できる体制を築くことが大切。	① 両県の防災業務関係者間の連携強化や合同研修等の実施を記述(p48, 20行目) モニタリング設備及び機器の整備・維持に、研修の実施を記述 (p35, 7行目) ホールボディカウンタに係る要員育成を記述 (p44, 34行目)
3	明石専門委員	① 医療機関での患者の受入れに当たり、事務部門も含めた病院・医療界全体において、放射線の正しい知識を身につけ、汚染等に対応することが必要。	① 医療界全体の被ばく医療に関する放射線医学等の研修の実施を記述 (p45, 14行目)
4	宇根崎専門委員	① 緊急事態に迅速に対応するためには、早く情報を入手し分析の上、住民に伝達することが重要である。 ② 専門的な表現が多くわかり難い。用語解説が必要。	① 情報の収集・連絡体制の整備に記述 (p27, p94) ② 新たに原子力防災用語集を追加(p110)
5	堂故委員	① 市内にUPZとPPAの2種類の圏域があり、各圏域で対応が異なるとわかりにくい。 ② 緊急時には、広域での避難が必要となるため、県が主導して避難計画を作成して欲しい。	① UPZの範囲を記述。具体的範囲は氷見市において検討中。PPAについては、今後国が示す予定の指針等を踏まえ、そのあり方を検討 (p15, 10行目) ② 今後、避難要綱を作成することとしており、氷見市等とも十分連携したい。
6	岩城委員	① 医療関係者を対象とした被ばく医療に関する研修会を継続的に実施して欲しい。 ② 安定ヨウ素剤の講習会等も実施して欲しい。	① 緊急時医療体制の整備において、被ばく医療等の研修の実施を記述 (p45, 9行目) ② 緊急時医療体制の整備において、安定ヨウ素剤の講習会の実施を記述 (p44, 18行目)
7	吉田委員	① 歯科医師を対象とした被ばく医療に関する研修を、北陸三県で実施したい。	① 緊急時医療体制の整備において、被ばく医療等の研修の実施を記述 (p45, 9行目)
8	新美委員	① 石川県とより緊密な情報共有を測る仕組みが必要。	① 情報の収集・連絡体制の整備において、石川県との相互連携を記述 (p28, 15行目)
9	兜山委員	① 放射線に関する研修の実施が必要。 ② 災害が発生した際の各防災機関の活動マニュアルを示して欲しい。	① 防災業務関係者の人材育成に記述 (p48, 13行目) ② 防災体制や活動体制の整備において基本的な対応を記述。今後の改定の中で必要に応じて内容を見直したい。
10	中村委員	① 東日本大震災において、避難所ではLPガスが有効であった。	① 避難所・避難難対応活動体制の整備に記述 (p103, 20行目、p38, 25行目)
11	岩田委員	① 各地域において自主防災組織が必要。 ② 県民が理解できる角筒状のパンフレットが必要。	① 災害時要援護者等への支援の中で自主防災組織を記述 (p39, 12行目) ② 知識の普及と啓発の方法に記述 (p47, 17行目)
12	高尾委員	① 自主防災組織の結成がなかなか進まない。	① 災害時要援護者等への支援の中で自主防災組織を記述 (p39, 12行目)
13	河上委員	① わかり易い言葉で表現して欲しい。 ② 訓練を実施しないと意識が高まらない。	① 新たに原子力防災用語集を追加 (p110) ② 防災訓練に記述 (p49)
14	久々江委員	① 避難所において、ユニバーサルデザインのトイレが必要。	① 避難所の整備に記述 (p38, 24行目)
15	小見委員	① 複合災害、冬季の積雪を意識した訓練が重要。	① 複合災害対策において記述(p104, 34行目)
16	片岡部会長	① 科学的知見に基づき SPEEDI の活用が必要。	① SPEEDIによる試算の実施を記述(p15, 17行目)

(順不同)